



# 「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性 概要

「道の駅」第3ステージ推進委員会 令和6年7月

## I | 背景

○第3ステージ開始以後に生じている社会情勢の変化や、政府計画への「道の駅」の位置づけ内容への対応が必要

新型コロナウイルス感染症 / 能登半島地震 / 物流の2024年問題 等  
2040道路ビジョン / 国土形成計画 / WISNET2050 等



## II | ここまでの「道の駅」施策の中間レビュー (全体の底上げに向けて)

### 地方創生・観光の拠点機能

(時代への適合 / 多様な地域ニーズへの対応)

- ・リニューアル需要の高まり
- ・物流の2024年問題やドローン配送など社会課題への対応
- ・車中泊ニーズへの対応
- ・時代に合わない施設配置や施設構成への対応
- ・現場ごとに多様な個別的課題への対応

時代に合わせた柔軟な「道の駅」の活用が必要

### 具体的な取組

- 施設配置の自由度を高める運用や制度の見直し
- 時代に合わせた『「道の駅」登録・案内要綱』の見直し

### 防災拠点機能

(能登半島地震で得られた教訓や課題)

- ・広域的支援や高付加価値コンテナ活用の有効性
- ・「防災道の駅」や高付加価値コンテナの数的不足
- ・高付加価値コンテナの手配や輸送の滞り
- ・「防災道の駅」以外の「道の駅」の脆弱性
- ・拠点として活用する際の機動性の低さ

災害時に国の意志が反映できる体制強化が必要

### 具体的な取組

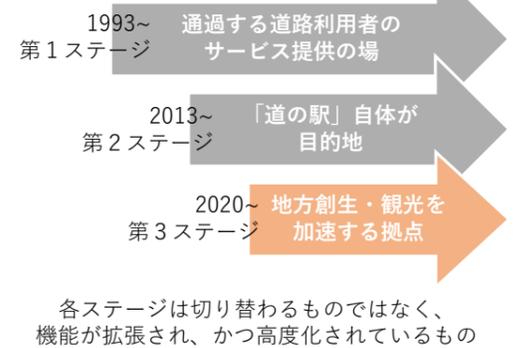
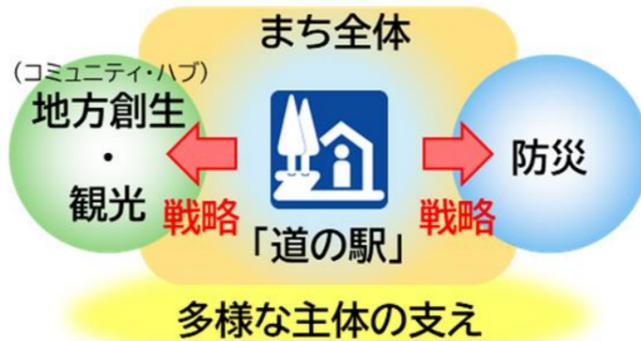
- 戦略的な「防災道の駅」の配置と追加選定
- 災害時に国が迅速に「道の駅」を活用し支援を行う仕組みの構築

## III | 「道の駅」第3ステージの姿

「道の駅」単体から  
まちぐるみの戦略的な取組へ

「道の駅」第3ステージとは

「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携して  
コンセプトの実現を成し遂げる取組



各ステージは切り替わるものではなく、機能が拡張され、かつ高度化されているもの

## IV | 今後の方向性 ~ 第3ステージを応援するための取組 ~ (第3ステージの突き抜けに向けて)

○まちぐるみで戦略的に取り組む自治体と「道の駅」を応援するための仕組みを新たに提案

### 第3ステージ実現のために (モデルプロジェクトの知見)

顧客視点での分析

まちぐるみの議論

地域価値の再定義

第3ステージ  
実現

国・連絡会  
による支援

戦略的な「しかけ」の実施

### 【茂木町の事例】



web検索・位置情報を活用した本格的なマーケティング分析



多様な主体の垣根を越えた体制により従来の「道の駅」の枠を超えるアイデアを実践



「道の駅」の新たなコンセプトを茂木町自体のコンセプトとして更新

リニューアルを契機に

「道の駅」空間で  
「まち」を体現

- ・移住相談窓口などの役場機能
- ・まちの魅力を発信する場などを「道の駅」に設置することを検討

### (第3ステージの実現に向けて)

○まちぐるみで地域の価値を再定義し、来訪者だけでなく、その地域に住む人にとっても幸せを感じられ、持続可能な仕組みであること

まちぐるみでの推進体制の確保

公募

関係省庁や有識者による選定

伴走型支援の実施



「まち」と「道の駅」が一体の「まちぐるみ」の取組

各省連携の支援

全国道の駅連絡会の支援 ※

予算措置

制度活用

ワンストップ相談窓口

アドバイザー派遣

※支援強化に必要な全国道の駅連絡会の体制強化もあわせて推進

### (仮称) 「道の駅」第3ステージ応援パッケージ

○第3ステージを強力に推進する意志を持つ「道の駅」に対し、中央官庁横断体制での重点的な支援や、専門家等のアドバイザー派遣など、国による新たな支援の枠組みを創設